

平成30年度 奈良県立五條高等学校（賀名生分校）学校評価総括表

学校経営方針	<p align="center">「行きたい」「行かせたい」「来てよかったです」と思える魅力ある学校づくり ～「夢」「希望」そして「挑戦」～</p>	<p>本校では、将来の目標を見据えて、「社会で自立して生き抜く力の育成」を目指し、「未来につながる確かな学力」、「豊かな心で人と連なるコミュニケーション能力」、「困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識の向上」に努める。そのため生徒それぞれに、「夢」、「希望」、そして「挑戦」をキーワードとして生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。</p>				総合評価 B
前年度の成果と課題	<p>これまで、創造的で独創的な多くの取組みを積極的に実践することによって</p> <p>①『学校の魅力づくり』 ②『入学生徒の確保』</p> <p>を学校経営の主眼として学校の活性化に取り組んできた。今、奈良県南部・地元五條市等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。今までの取り組みを通して明らかになった課題を整理する中で、農業の担い手の育成やスキルアップを図るなどの改善点が見えてきた。</p> <p>平成30年度から全国募集を始め、新たな学校として生まれ変わるため、その「魅力向上計画」を検討してきたが、県内外から入学する生徒・保護者や地域の期待に応えるべく、計画の充実を図る必要がある。</p>					
本年度の重点目標		評価の指標（担当）等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
	具体的目標 ○主な具体的方策					
1 「社会で自立して生き抜く力」の育成						
(1) 確かな学力の育成 ①静かで落ち着いた学習環境づくり ○学習活動の工夫を図る。 ②魅力ある授業の創造 ○基礎・基本の定着 ③コミュニケーション能力の向上 ④計画的・系統的な進路指導 ○進路目標の早期決定・キャリア教育の充実	<p>⇒生徒アンケート「授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている。」（教務部） 30年度<目標:80%></p> <p>⇒保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」（教務部） 30年度<目標:80%></p> <p>⇒生活体験発表会への参加（教務部） 30年度<目標:全員></p> <p>⇒生徒アンケート（第4学年）「自分の希望する進路実現ができた」（進路指導部） 30年度<目標:90%以上></p> <p>⇒生徒アンケート（全学年）「生徒一人ひとりの進路に応じて、丁寧な指導が行われている」（進路指導部） 30年度<目標:90%></p>	81% 100% 100% 66% 80%	B A A B B	<p>生徒、保護者アンケートの集計結果では、一応、年度当初の目標はクリアできているが、本当の意味で、低学力傾向にある生徒や、療育手帳を持つ、いわゆる支援が必要とされる生徒に対して、適切な学習指導、生活指導、進路指導ができるかとなると、疑問が残る。しかし、現場だけではとうにもならないことだと思う。</p> <p>生活体験発表会当日欠席者は後日再実施し、全員参加できた。</p> <p>希望通りの進路内定ができた生徒がいる一方、まだ未決定の生徒もいる。支援を必要とする生徒の進路実現をサポートできる体制作りが必要である。</p>	<p>支援を必要とする生徒に対して、本当の意味で指導できる体制を作っていく必要があると思われる。特別支援教育について専門的な知識をもつ教諭の任用、スクールカウンセラーやの導入、養護教諭の常勤化など、本校の現状と課題をきっちりと把握し、本校に本当に必要な体制を整えていく必要がある。</p> <p>1年生からの早期対応。生徒個別対応を継続的かつ計画的に担任と共に進路指導にあたる。また、保護者とも連携し希望の進路実現につなげる。</p>	
(2) 豊かな心の育成 ①積極的生徒指導の推進 ②人権教育の推進 ③規範意識の醸成 ④地域貢献活動による生徒の主体的活動の推進 ⑤現場実習等により社会性の醸成と正しい勤労観の育成	<p>・各実習及び地域貢献活動等を通じた規範意識の醸成</p> <p>⇒生徒アンケート「生徒会・ボランティアの活動は活発で、関心が持てる内容である」（生徒指導部） 30年度<目標:80%></p> <p>⇒事故件数・違反件数（生徒指導部） 30年度<目標:0件></p>	85% 1件	A B	<p>全国募集により、地域からの声掛けも多くなり、生徒も昨年以上に興味、関心を示し、ボランティア活動に対する意識も向上してきた。一部の生徒だけでなく、全校生徒に浸透できるようにしていければと思う。</p> <p>下校中に車との接触事故が1件あったが、大事に至ることはなかった。</p>	<p>様々な年齢層や多くの業種との交流を多く持ち、どのような交流を目指し、どんな生徒を育成させるのかを考え、より多くの生徒に社会性を持たせ、更なる規範意識の向上を目指したい。</p> <p>社会での交通問題を生徒に提起させ、教室を開き、より一層の交通ルール、マナー向上を目指す。</p>	・地域と密着したボランティア活動に対する関心をさらに高めていくって欲しい。
(3) 体力の向上、忍耐力の育成 ①心身の健康保持、増進 ②体験活動の充実と忍耐力の育成	<p>⇒部活動加入率（生徒指導部） 30年度<目標:50%></p> <p>⇒各体育行事の参加率（保健体育部） 30年度<目標:90%></p>	20% 90%	C A	<p>大まかではあるが、一年生の人数が多い中でいろいろな行事的には仲良く楽しんで目標を達成することが出来た。</p>	初期の準備、役割分担等を明確にする。	
2 外部との連携・情報発信の強化						
①五條市・五條市教育委員会・地元自治会・老人会等との連携 ②地元幼稚園との連携強化 ③学校・家庭・地域・関係機関との連携強化	<p>⇒地元行事への積極的参加 30年度<目標: 4回></p> <p>⇒農業クラブ・家庭クラブとの交流強化 30年度<目標:10回></p> <p>⇒学校行事への育友会会員の参加者数（総務部） 30年度<目標:40%></p>	7回 10回 41	A B B	<p>地元行事への参加がボランティア部や農業クラブを中心に、数多く参加があり、地域に多いに貢献できた。</p> <p>育友会の行事への参加は、健康</p>	<p>地元行事への参加では、ボランティア部・農業クラブ顧問の負担が大きく、幅広く教員の協力が必要である。</p> <p>学校行事の育友会会員の参加</p>	・健康祭や幼稚園や老人福祉施設との交流、地元行事への参加を通して、地域との連携をさらに深めてもらいたい

④入学希望者数の確保 ⑤ホームページの充実	⇒学校ブログ年間更新回数（総務部） ⇒ホームページでの情報発信（総務部）	30年度<目標：200回> 30年度<目標：年間20回>	% 257回 20回	A A	祭のみにとどまり、全国募集に伴い、育友会会員も遠方に広がるため、今後も行事参加は日程を考えると難しい状況である。市教委による新たな学校HPの立ち上げにより、HPを一本化し、学校からの発信はブログのみとなつた。	は、日程を見直し、遠方からでも参加しやすい日程にする必要がある。市教委管理のHPとなつたため、市教委との連携が必要である。	い。
3 学校改善のための継続的・創造的な取組み							
①新たなスクールアイデンティティの構築 ②コミュニティ・スクールによる学校改革（学校運営協議会） ③地域に根ざし、共に歩む学校づくりと改善プラン（スクールカウンセラー・スーパーバイザーの単独配置） ○支援を必要とする生徒やその保護者を対象に、カウンセリングを受ける機会を広げる。 ④北海道現場実習の継続 ○北海道実習参加認定評価委員会における参加者の決定等 ⑤魅力向上計画の推進・協力	⇒啓発活動(分校部会)の回数 ・平成30年5月～平成31年2月実施 ⇒生徒アンケート「先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」（生徒指導部） ⇒生徒アンケート「生徒に人権を尊重する態度を身に付けようとしている」（人権教育部） ⇒受入農家評価（教務部） ⇒プロジェクト会議への参加	30年度<目標：年間4回> 30年度<目標：80%> 30年度<目標：95%> 30年度<目標：90%> 30年度<目標：6回>	4回 83% 72% 5回	A C B A B	全国募集による新入生を迎える、新たな教育課程での取組についての課題について、学校運営協議会を含めた様々な会議で議論することができた。 生徒の抱える多様な問題に対して、他生徒への理解が浅いことが原因でおこる問題が多い。 今年度、3・4年合同の実施となったが、10日間欠席もなく、全員やり遂げ、農家の評価も概ねよい評価をいただいた。 桜花寮や協力農家の方々との会議を開き、意見交換をすることができた。	様々な課題に対して、更に議論を深め、よりよい改善に向けて市教委、地域と連携を深めていく。 他者への理解、配慮とともに自身の課題に関する指導のあり方を工夫する。 来年度は未実施となるが、今後の実施計画（単学年・合同学年）を早期に計画する必要がある。 もう少し定期的に会議を開催できるように準備を進めよう。	・新しい学校改善への取組みに継続的に支援していただきたい。

各分掌等の評価計画

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	2-⑤ ○学校関係者への情報発信の充実に努め、積極的な意見聴取を行うことにより、学校・家庭・地域の連携をより強化する。	・育友会・同窓会との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。 ・育友会役員会の在り方を工夫し、参加しやすい状況を確保する。	・育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。 ・育友会の学校行事への参加意識を高める。 30年度<目標：30%>	41% A	育友会の行事への参加は、健康祭のみにとどまり、全国募集に伴い、育友会会員も遠方に広がるため、今後も行事参加は日程を考えると難しい状況である。 市教委により分校独自のパンフレットが作成された。個々での学校訪問にも随時対応し、分校の特色を広めることができたが、中学校訪問は実施していない。 年4回の説明会に、中学生53人、保護者・教員を含めると、124人の参加があった。 農業実習を中心に、幼稚園との交流を数多く行った。 分校の情報を日々更新できるよう心がけ、平均アクセス数を安定して伸ばすことができた。	学校行事の育友会会員の参加は、日程を見直し、遠方からでも参加しやすい日程にする必要がある。	・賀名生分校の魅力をさらに発信してもらいたい。
	3-⑤ ○中学生やその保護者を対象に賀名生分校の魅力を情報発信する。	・賀名生分校紹介のパンフレット等を作成する。 ・学校説明会（中学校・保護者等）を開催する。	・五條高校パンフレットに加え、分校独自のパンフレットの内容を検討し、改訂する。 ・機会あるごとに説明会を開催し、中学校訪問等も実施し、賀名生分校の特色を理解してもらう。（年間5回以上）	4回 B		在校生出身の中学校訪問を実施し、学校での様子を含め、分校農業科の特色を理解してもらうよう努める。	
	3-② ○中学生に本校の様子について体験できる機会を提供する。	・中学生の高校見学を開催する。	・8月第3土曜、12月第1土曜に開催する。 30年度<目標：10人>	53人 A		開催時期を検討し、中学生の進路決定時期に合わせよう努める。	
	2-① ○地元幼稚園との交流。	・学校へ招待したり、定期的に訪問し、交流の機会を設ける。	・ふれあい健康祭や、食育活動・農業実習等、機会に応じて交流を図る。（年10回以上）	10回 A		幼稚園児の少人数化に伴い、訪問体制も考える必要がある。	
	2-⑤ ○学校ホームページやブログを充実させる。	・学校Webページの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。	・生徒の様子をリアルタイムで伝え、情報をタイムリーに発信する。内容の充実を図り、アクセス数を増やす。 30年度<目標：月3,000件>	月1万 A		ブログ発信者を、数名に増やし、様々な視点で発信できれば更によい。	
教務部	1-(1)-① / 1-(1)-② ○座学と実習の時間割配置の工夫	・豊かな自然を生かし、落ち着いて学習に取り組める環境づくりに努める。 ・各教科・科目とも基礎・基本の確実な定着を図り、一人ひとりの生徒のもつ能力を最大限發揮できるよう、指導法・教材の工夫改善を行う。	・落ち着いた環境の中、シラバスによる「わかる授業」を開発し、主体的に学ぶ姿勢づくりに努め、出席率の向上をめざす。 29年度 90.0% → 30年度<目標：95%>	94% B	全国募集により入学してきた生徒の中には、不登校など、課題を抱える生徒も多く、年度当初は遅刻・欠席が増えると思われたが、入学生の多くが寮生活しており、また、舍監の指導もあり、欠席・遅刻は少なかった。低学力傾向の生徒も多いので、各教科において、生徒の理解にあわせた授業の展開の工夫をしている。	低学力傾向、療育手帳を持つなど、さまざまな課題を抱え、支援を必要とする生徒が多く在籍している。「わかる授業」を工夫・展開する上で、カウンセラーなど専門家の助言をもらえるような体制の整備の必要がある。	・授業を充実させるために各先生型の研修を深めていただきたい。
			・「学習の仕方」が身に付く授業を目指し、成績不振科目保持率の減少に努める。学期末等には補充学習を実施する。 29年度 13.0% → 30年度<目標：10%>	11% A			

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等の意義の確認を徹底し、出席率の向上を図る。 <p style="text-align: center;">29年度 93% → 30年度(目標:95%)</p>	93 %	B	B	<p>出席率は93%であったが、「積極的に参加できたか」、という点では90%であった。</p>	<p>学校行事については、3学期制への移行や、全国募集に伴う教育課程の大きな変更などもあり、行事の内容の見直しなど、行事を精選していく必要がある</p>
	1-(1)-③ / 1-(2)-④、⑤ ○地域との連携による社会性の醸成などに努める	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習形態、個に応じた指導の改善・充実を図る。 ・「魅力的で活気ある学校」を創造し、しっかりと登校できる生徒を増やし、生徒にとって輝きのある学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域等を含めて、広く学習の場とする。特に地域との連携活動を、28年度の約13項目から、15項目へと生徒や保護者に説明できる適切な評価を行う。 ・教育課程上のみならず、様々な学習機会を通して、生徒の育成を図っていく。 	B	A	<p>本年度も昨年度に引き続き、ふれあい健康祭、通学路清掃、地域の幼稚園、老人施設との交流など学校行事の他、地域のお祭りなどのイベントにも参加した。こうした地域との交流は生徒の成長にとって有意義な取り組みであったと思われる。</p>	<p>全国募集にともなう新しい教育課程において、円滑な学校運営をすすめるため、年間行事計画の中で、地域との交流に関わる学校行事をどのように位置づけていくかを考えていく必要がある。</p>
生徒指導部	1-(2)-③ ○規範意識の向上と基本的生活習慣の確立。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導や個別指導、家庭との連携を通して、服装・生活態度・礼儀・挨拶・時間の遵守など日常生活に拘わる基本的ルールを守る姿勢を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昇降口指導（服装・頭髪等）を年10回以上行う。 ・特別指導（訓戒）の件数を昨年以下（年間3件）におさえるよう日々の指導に努める。 	16回 9件	A C	<p>昇降口指導については、挨拶や声掛けなどを通して適切な指導ができた。 2回、3回と指導回数を重ねてしまった生徒がいた。</p>	<p>今後、生徒数も増え、服装や頭髪指導も今以上に困難になってくるので、生徒会役員と協力して生徒自身で守るルールを作っていく必要がある。</p>
	3-③ ○複雑で多様化している生徒とそれに伴う問題行動の多様化に対する指導の確立。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間の報告・連絡・相談を重視し、諸課題について教員間の共通理解をはかる。 ・いじめの防止等のための基本方針に基づき、いじめの防止、早期発見につとめ、組織的な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動などの早期発見のため、登下校、授業中、放課後などの巡回を徹底する。教室の戸締まり、貴重品の管理など生徒自身の自己管理を促す。 ・個人別生活カードの円滑な運用を図る。 ・問題事象については、メモをとり保存することを徹底する。 	A B B	B	<p>盜難などの被害は特になかったが、授業中に不安定になり、保健室に来る生徒が多くなった。いじめについても、寮との連絡、連携が不十分なところもあった。事象についての記録や個人別生活カードの活用はできた。</p>	<p>常に声掛けを行い（叱ること、褒めること）、規範意識の向上を図り、生徒自身が積極的に自分で考えて行動できるように、指導できる体制づくりを考案すべきである。</p>
	2-③ ○保護者や各関係機関との連携をとり、生徒の状況に応じた適切な指導を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連絡・連携を密にする。 ・各関係機関との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の家庭訪問では、指導方針についての理解を求めるとともに、生徒の状況についての把握に努める。 ・生徒への声かけを積極的に行い、円滑な人間関係を築いて、生徒の抱える問題の把握につとめる。 ・生活安全・規範意識の向上に関する講演会や研修を年1回以上開催する。 	1回	B B B	<p>各学年によって多少ばらつきはあるものの、おおむね家庭との連絡、連携は取れていた。しかし、遠方生徒が多いため、家庭訪問に苦慮した。日頃から気になる生徒への声掛け等により、問題事象も早期に発見できた。</p>	<p>多くの問題事象の中で、特に寮の生徒が不安定になるケースが多くなったので、少なくとも学期に一回は話し合いを持ち、寮、学校、市教委との情報交換を持つべきである。</p>
	2-③ ○安全教育の推進。	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理や安全についての意識を高め、防犯や不審者の対応についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、消防署、各医療機関などと連携を図り、交通安全教室や薬物乱用、救命救急、大災害、防犯や不審者の対応について、学期ごと（年3回以上）に講演会、危機管理マニュアルを隨時確認する。 	1回	C	<p>薬物乱用防止講演会を警察に依頼して行ったが、その他の題材については行わなかった。</p>	<p>学校所在地周辺に危険区域が多いため、想定外のことを考え、本校に応じたマニュアルを作成すべきである。</p>
進路指導部	1-(1)-④ ○計画的・系統的・組織的に進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・より早い時期から卒業後の進路を意識させるホームルーム活動や、進路相談を実施する。「進路のしおり」（仮称）を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業までに全員の進路保障をする。 ・年間計画に沿って、ホームルームで進路指導を実施するためのワークシートを準備する。 ・面接指導を目的とした職員研修を実施する。 	66 %	B	<p>進路未内定者1名。就職までの流れのプリントを配布し、見通しをもたせることができた。面接指導においては面接カードを用い全校的な体制がとれた。</p>	<p>各学年における進路指導の目標を設定し、職場体験やインターンシップ、HRを計画する。</p>
	1-(1)-④ ○多様な生徒一人ひとりの進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って生活させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談や意識調査を実施し生徒の希望を探り、意識を高める。 ・多様な生徒の進路を保障するため、関係機関との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導室を有効に活用し、随時、個別に相談を受けることができる態勢を整え、利用状況を記録する。 ・支援が必要な生徒を安定した雇用（福祉就労A）に結び付ける手立てを構築する。 	B	B	<p>各学年にアンケートを実施（3年2回、他1回）生徒の希望把握を行った。支援を必要とする生徒の就労支援のため、ハローワークと連携ができた。</p>	<p>保護者との連携。3年2学期の懇談において、進路について保護者と本人の希望を確認し、系統だった進路指導につなげる。</p>
	1-(2)-⑤ ○望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。そして、早期離職を未然に防ぎ、就職先への定着を高めキャリアを積ませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生のフォローを実施し、卒業生とその上司の意見を聴き、早期離職の防止を目指すと共に、進路指導にフィードバックさせる。 ・職場体験、インターンシップを適切に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧担任への協力を求め、定期的に状況調査を実施と卒業生就職先への訪問により可能な限り現状を把握し、記録を残す。 ・職場体験・インターンシップの受け入れ先を新規に開拓し、生徒のニーズに対応する。 ・事前指導・振り返りを充実させて、より、その効果を高める。 	B	B	<p>早期離職5名（H30、3月卒）生徒の希望に応じたインターンシップ先を開拓できた。インターンシップ日誌や評価表を用い、事前指導や振り返りに活かせた。</p>	<p>年1回はインターンシップに全員が参加するように促す。インターンシップに参加しない生徒に対する進路指導の体制を整える。</p>
人権教育部	1-(2)-② ○職員の人権意識の資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議時の研修として、ホームルーム指導案の検討等をおこなう。 ・県教委主催の研修会等の案内、参加を呼びかける。 	C	B	<p>事前に指導案を提示することができず、内容について十分に検討してもらうことができなかつた。校外研修会についても案内が十分でなかつた。</p>	<p>人権ホームルーム前の職員会議で指導案を提示し、先生方から意見を出してもらい内容を検討する。校外研修については案内を回覧し、参加を呼びかける。</p>
	1-(1)-③/1-(2)-② ○生徒の人権意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの自尊感情を高める。 ・生徒のコミュニケーション能力を 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームの実施。 ・ホームルーム時に人権作文を書かせる機会をつくる。 ・校内映画会等で人権に関わる作品を取り上げる。 	B	B	<p>・人権ホームルームは毎月、実施できた。11月の全校人権学習会映画会では人権に関わる作品</p>	<p>ホームルームで出た生徒の意見や感想を生徒たちに戻し、そうした意見や感想を通</p>

	高め、対人関係づくり、他者理解の力を養う。	・人権ホームルームだけでなく、さまざまな学校行事を通して、生きる力を養う。			(「クイール」)を取り上げた。	して、他者への理解力が深まるような展開を検討する	
	3-(3) ○特別支援教育の向上に努める。	・支援を必要とする生徒の把握を職員間での情報共有を図る。	・家庭訪問や中学校訪問を実施して、支援を必要とする生徒の把握に努める。 ・職員会議時に研修会を開き、支援を必要とする生徒に関する情報の共有を図る。 ・授業等においては、担任と連携をしながら、分かる授業の展開に努める。 ・県主催の研修会等の案内、参加を呼びかける。	B	・支援を要する生徒だけではなく、その他、気になる生徒についても、保護者や関係諸機関と連絡を取りながら、状況の把握に努め、職員会議で情報の共有を図ることができた。 ・校外研修会については、案内が十分でなかった。	生徒の授業や休み時間の觀察に加え、中学や生育歴についても把握し、情報交換して課題を共有する。校外研修については案内を回覧し、参加を呼びかける。	多様な生徒に対応するためにも、先生方の情報共有を大切にしていただきたい。
第1学年	1-(2)-③ ○基本的な生活習慣を確立させる。	・高校生としての自覚と基本的な生活習慣を身に付けさせる。	・家庭訪問や寮長（舍監）との面談を実施し、家庭や寮との連携を図り、欠席・遅刻の減少に努める。	B	2学期中盤までは問題事象が多く発生したが、その都度、寮長や舍監と連携し、家庭訪問等を実施した。3者面談時には、事前に舍監と生徒の様子に関する報告を綿密に行なったうえで、保護者と生徒に課題等を提示した。欠席は少なかったが、遅刻や保健室で過ごす生徒は多かった。	担任、舍監、保護者等それぞれに対する生徒の態度や主張が異なることも多いため、普段の行動をよりよく観察したうえでの連携を強化する。特定の生徒に対する配慮事項については、課題と目標を具体的にして、職員間で共有する。	
	1-(1)-①/1-(2)-③ ○基礎学力を身に付けさせる。	・授業の大切さを理解させ、学習に取り組む姿勢の向上に努める。	・考查点だけでなく、日々の授業の様子や提出物等も成績として評価されることを理解させ、日々の授業を大ににし、各教科の欠課時数を減らすとともに、ノート、プリント等の課題に積極的に取り組ませる。	B	1学期では授業や考查に対する取り組み状況は不振で、授業中に保健室で過ごす生徒も多く、提出物の状況も悪かった。2学期の後半あたりから、授業態度や提出物は改善し始め、保健室で過ごす生徒も減少した。	授業や考查に対する取り組みに関しては、繰り返しその意義や問題点について考えさせる。 校外での実習を活かし、進路や自分の長所や短所を考えさせる。	
第2学年	1-(2)-③ ○規範意識を高める。	・きちんとした言葉遣い、身なり、礼儀作法を身に付けさせ、自律心を養う。	・担任が意識改革をし、率先垂範する。	B	担任が言葉遣い、身なり、礼儀作法について日頃から意識し、生徒にも注意を喚起し、実践させることができた。今後も気をつけさせる。	身近な社会人のモデルとなることを意識して、言葉遣いなど率先垂範していく。	
	1-(1)-③ ○他人を思いやる心を持たせる。	・各自が2年生4名の一員であることを自覚させ、連帯感を持たせ、社会性を育む。	・日常的に生徒の観察を行い、状況に応じて積極的に関与する。	B	生徒の様子や特性を把握し、生徒に応じた指導を行うことができた。リストカットなどの事象について適切な関わり方にについて不安があった。	特性に応じた適切な関わり方についての研修を積み、実践に活かす。	
	1-(1)-④ ○卒業後の進路を意識させる。	・職場体験実習等に積極的に参加させ、職業意識を持たせ、生きる力を育む。	・職場体験実習に全員の参加を促す。	B	進路意識を積極的に喚起し、生徒4人中3人が職場体験を行った。今後も積極的に促したい。	職場体験の効果について、有用性を説明できるようになる。職場体験の経験を後の進路選択の資料として活用できるようにする。	
第3学年	1-(1)-①/1-(2)-③ ○規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人として必要な礼儀作法や規範意識を身に付けさせる。	・場をわきまえ、他者を思いやる言動ができるようになる。 ・修学旅行などを通して集団行動、規範意識を身に付けさせる。	B	年頭にあげた課題ではあるが一年間を通してなかなか浸透できず、残念です。朝の挨拶にしても気まぐれでしっかりと出来ませんでした。欠席連絡等についても忘れることが多く、社会に出るための基本的生活習慣をもっと確立させなければならぬと思います。この反省を次年度いかせるように頑張ります。	基本的生活習慣を確立する。最終学年として進路決定をできるだけ早い時期に親ともども相談し、悔いのない高校生活を終えるように頑張らせる。 体調面で不安のある者が多いので体調面をしっかりとコントロールできるように生活させる。	
	1-(1)-③ ○学習方法と表現力の向上を図る。	・学ぶ方法や学んだことの表現方法を身に付けさせる。	・座学、実習を関連させて学んでいるか、学んだ事柄を自分の言葉で伝えられるかの確認に努める。	B			
	1-(1)-④ ○進路目標を具体的にさせ、その実現に向けて取り組ませる。	・進路目標を主体的に模索し、その実現に向けて取り組ませる。	・進路に関する希望や意志を随時確認する。 ・職場体験やオープンスクールに参加させる。	B			
第4学年	1-(2)-③ ○最高学年としての自覚と責任をもたせるように指導する。	・下級生の模範となる生活習慣・生活態度を確立するとともに、自身の生活習慣を振り返らせる。	・年間欠席総数の減少に努める。	B	就職や卒業という目標があり、昨年度より欠席が減ったが、授業の日は出席するが、行事への参加が出来ない生徒もいた。北海道実習は3名中1名だけが参加したが、残りの2名もインターネットに取り組んだ。就職試験に向けて懸命に取り組み卒業後の進路は3名中2名が決定している。保護者とも密に連絡をとり、進路選択に活かせた。進路決定後は、社会人としての	進路決定度、社会人としての心構えや言葉遣い・態度等育成できるよな取り組みを行う。支援の必要な生徒もあり、保護者の意向の把握が重要である。4年生からではなく、3年時に保護者の意向を確認しておく。 最高学年として、他学年の見本となるような行動ができるよう普段の生活で継続した指導を行う。	
	1-(1)-④ ○進路実現へ向けて充実した指導を図る。	・北海道現場実習や就業体験を通して、正しい勤労観・職業観を養う。 ・生徒の適性や可能性を活かした進路指導を行う。	・生徒、保護者の考えを十分に踏まえた上で、進路指導を進める。 ・進路先のミスマッチがないように、必ず会社見学を行ってから試験に臨ませる。	B			

	1-(2)-③ ○社会人となるための心構えや態度の向上を図る。	・挨拶の励行や時間を守ることの大切さを徹底するとともに、高校生としての服装や言葉づかいを指導し、卒業後に備えさせる。	・最高学年として、他学年の手本となれるような行動ができるようになる。	B	心構えや言葉遣い・態度について指導していたが、なかなか身についていない。考査前の取り組みなどは他の学年の見本となるような行動がとれていた。		
農業科	1-(1)-② ○基本的な農業技術の定着を図る。	・実験実習を重視し、実践的な授業を展開する。 ・生徒が積極的に学ぶことができる、安心・安全な農場づくりに取り組む。	・実験実習を50%以上行う。 ・各分野の教材を80%以上整備する。	70% 85%	A	1年生では、地元農家や農業法人での実習を20回実施し、2年生以上でも近隣農家での実習を取り入れ、知識や技術の習得だけでなく、コミュニケーション力の育成も図ることができた。 プロジェクト発表1分野、意見発表2分野に出場したが、近畿大会へ出場することはできなかつた。農業鑑定競技会では2位3位を獲得した。	教材の計画から実施において、生徒の意見やアイデアを活かす等、生徒の興味や関心を高める工夫を模索する。学年を重ねるにつれ、既修事項を組み合せた判断が必要な内容にするなど、より高度な内容の実習になるよう工夫する。
	1-(2)-④, 1-(2)-⑤ ○地域農業の状況や課題に関する学習内容の充実を図る。 ○北海道現場実習、地域農家での実習を充実させる。	・農家の実習により、技術だけではなく、勤労観や経営観を育成する。 ・安全な食料供給、環境に配慮した栽培技術についての関心を高め、食育活動につなげる。	・地域の農業関連施設での活動、実習を年間5回以上行う。 ・地元農家での実習を年間20回以上実施する。	10回 20回	A	岳祭り、御靈神社秋祭りに参加した。	より多くの生徒に農業クラブ活動に参加させ、より地域の課題に取り組む内容しながら活発に展開したい。 地域の伝統行事には定期的に参加し、参加する意義を理解させ、より深く関わらせたい。
	1-(3)-② ○農業クラブ活動の充実を図る。	・各競技会にむけた取り組みを強化し、地域行事などに積極的に参加する。	・県連盟競技会、発表会に3部門以上参加し、近畿大会に出場する。 ・地域の伝統行事に積極的に参加する。	B			
家政科	1-(1)-② ○基礎的技術の定着を図る。 1-(2)-④, 2-①, ②, ③ ○家庭クラブ活動の自主的参加を促す。	・実習主体の授業を心がけ、体得的な学習によりやる気を起こさせ、基礎的な技術の定着を図り、能力に応じた技術の習得を目指す。 ・地域に密着した家庭クラブ活動を通じて、自主的に取組む姿勢、社会性や奉仕の精神を育む。	・実習を重視し、年間授業の1/3以上実習を行う。 ・家庭クラブ活動への参加率100%。	A	A	教科により偏りはあるが、実習中心に実践できた。検定は昨年の合格率が低く、今年は受検せず次年度の受検に向けての練習を積み重ねた。家庭クラブ活動は積極的に参加し、役割を果たしてくれた。	来年度の家政科開設に向けた取り組みを行う。家庭クラブ活動の中で農業クラブや生徒会等に継続できるものは伝えていく。